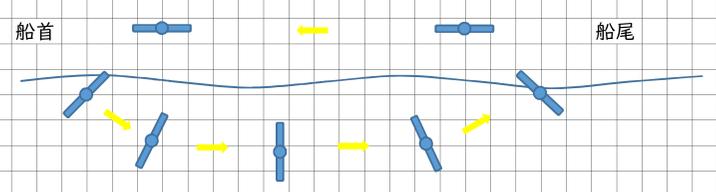


<p>カッター漕艇</p>	<p>ポイント</p>	<p>①カッターの各部名称と操舵号令について理解している。</p>		
<p>目的 カッター漕艇方法と推進の仕組みを理解する。</p>		<p>仮説</p>	<p>②カッターの推進の仕組みについて理解している。</p>	
<p>結論 カや水流の向きの変化に着目するとカッター漕艇の方法が理解できる。</p>		<p>③</p>		
<p>内容等</p>		<p>気づいた点, 疑問点, 問題点, 課題等</p>	<p>まとめ, 考察, 行動目標, 改善点, 研究課題等</p>	
<p>1 目的 カッター漕艇方法と推進の仕組みを理解する。</p> <p>2 方法 (1)カッター各部名称について座学で確認し覚える。(定期考査で出題) (2)カッター操舵号令について教科書で確認し覚える。(定期考査で出題) (3)カッター乗艇前の整列及び人数確認の方法について説明を聞き実践する。 (4)カッターに乗艇し, 各部名称について実物と照らし合わせて確認する。 (5)カッターの漕艇方法について説明を聞き, 実践する。 (6)交代で艇長, 艇指揮を担当し, 操船方法を理解する。 (7)カッターから上陸後, 整列し人数の確認を行う。</p>		<p>なぜ? ○ オールの入水及び離水のタイミングがそろわなければスピードが上がらない。</p> <p>つまり ○ ブレードが離水するときに手首をしっかり返さなければ, オールを水にとられてしまう。</p> <p>○ 舵の舵角は大きくすればするほど, よく曲がるのだろうか。</p>	<p>○ タイミングがそろっていないと, 加速した水流をタイミングのずれたオールがせき止め, 減速してしまう。</p> <p>○ 手首を返さなければ, ブレードに水中へ潜る方向に力が働き, オールを水面に上げることが困難になる。</p> <p>○ 舵の形状にもよるが, カッターのような舵の場合には片舷35度程度と言われている。</p>	
<p>3 考察 (1)カッター漕艇時のブレードの角度について図示してみよう。</p>  <p>(2)カッター操船時の舵を切る方向と進む方向について図示してみよう。</p> 		<p>○ 座る位置, オールとローロックの位置関係の違いによって, 必要な力はどのように変わってくるか。</p>	<p>○ てこの原理により, ローロックからグリップまでの長さが長くなるほど, 少ない力で漕ぐことができる。ただし, 隣に座る人との間隔に気をつけなければならない。</p> <p>○ 専門用語 (英語) ・カッター cutter boat ・船首 bow ・船尾 stern</p>	
		<p>評価の観点 (~R03) ○関心・意欲・態度 ・他者と協働してカッターを漕艇できる。 ○思考・判断・表現 ・自ら考え適切な操舵号令で操艇できる。 ○技能 ・カッターを漕艇することができる。 ○知識・理解 ・カッター各部名称, 操舵号令を理解している。</p> <p>評価の観点 (R04~) ○知識・技術 ・カッター各部名称, 操舵号令を理解している。 ・カッターを漕艇することができる。 ○思考・判断・表現 ・自ら考え適切な操舵号令で操艇できる。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・他者と協働してカッターを漕艇できる。</p>	<p>自己評価</p>	